文化財愛護
シンボルマーク

北条町埋蔵文化財報告書30

鳥取大学附属図書館
郷土資料室

hōjō
鳥取県東伯郡北条町

Chōnai
町内遺跡発掘調査報告書

第10集

郷土資料
.2
j
)

2001. 3

北条町教育委員会

hōjō
鳥取県東伯郡北条町

Chōnai
町内遺跡発掘調査報告書

第10集

2001.3

北条町教育委員会

序　　文

今日、我が国は経済発展が進み、経済的ゆとりの獲得という戦後からの目標を達成しつつある中で、新たな生活目標として文化水準の向上が求められるようになってきております。この流れにおいて、地域の歴史、文化等の理解、そして文化意識の向上の礎となる文化財を保護、解明していく立場として、本町においても日々努力しているところであります。

北条町は、鳥取県中部を流れる天神川の下流西岸に位置する、総面積21㎢の小規模な町ですが、北条町遺跡分布図によりますと丘陵部を中心に600件もの遺跡が存在し、その分布密度は県下一となっております。しかしながら、現在も未踏査区域が広範囲に及ぶことから、実際の遺跡件数はその倍になるものと思われ、この地域の文化水準向上に直結する豊富な資源を地域文化に生かし、後世に伝えていくことが私たちの責務であると考えております。

今回の調査は、北条町北尾地内で行われるＮＴＴドコモ北尾基地局建設工事、そして北条町曲地内で行われるふるさと農道緊急整備事業に伴い、これらの工事予定地内の遺跡の有無、範囲を確認するための試掘調査であります。北条町教育委員会が主体となり、事業主体者をはじめ、地元関係者と綿密な連絡を取り合い調査を進めてまいりました。

調査にあたっては、鳥取県教育委員会文化課及び鳥取県埋蔵文化財センターのご指導はもとより、地元作業員、その他調査関係者各位には多大なるご尽力をいただき、深く感謝申し上げる次第でございます。

これを契機といたしまして、地域の生活文化水準向上に資する文化財の保護に一層力を注いでいく所存でありますので、今後とも各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成13年３月

北条町教育委員会
教育長　吉田俊夫

例　　言

1．本報告書は、平成12年度、鳥取県東伯郡北条町教育委員会が国と県から補助金を受けて実施した「町内遺跡発掘調査等事業」の報告書である。

2．今年度の調査は、鳥取県東伯郡北条町北尾字八幡山、曲字坂場東平、曲字岡、曲字屋敷において、トレンチによる試掘調査を行い本報告書を作成した。

3．本書の執筆、編集は清水直樹が行った。

4．遺構の実測、図面作成、写真撮影は調査に携わった全員の協力により清水直樹が、遺物の実測、遺構図、土器の浄書は清水直樹・清水紀子が行った。

5．本書に使用した方位は全て磁北を示す。

6．図面、写真、出土遺物等は北条町教育委員会が保管している。

目　　次

序　文
例　言
目　次
第１章　調査に至る経過 …… 2
第２章　位置と環境 …… 3
第３章　調査の概要 …… 4
・北尾地区発掘調査 …… 4
・曲地区発掘調査 …… 6
第４章　まとめにかえて …… 10
報告書抄録 …… 11

挿　図　目　次

挿図１　北条町内遺跡分布図 …… 1
挿図２　北尾地区トレンチ位置図 …… 4
挿図３　トレンチ２平断面図 …… 5
挿図４　曲地区トレンチ位置図① …… 7
挿図５　曲地区出土遺物① …… 7
挿図６　曲地区トレンチ位置図② …… 8
挿図７　曲地区出土遺物② …… 8
挿図８　トレンチ３平断面図 …… 9
挿図９　トレンチ11平断面図 …… 9

図　版　目　次

図版１　北尾地区近景、北尾地区トレンチ２完掘、曲地区遠景
曲地区トレンチ完掘
図版２　曲地区トレンチ11完掘、曲地区トレンチ11遺物出土状況
曲地区トレンチ出土遺物①、曲地区トレンチ11出土遺物②

A	北尾地区試掘調査地	B	曲地区試掘調査地	1	曲古墳群
2	土下古墳群	3	やすみ塚(土下213号墳)	4	茶臼山古墳群
5	北尾古墳群	6	島古墳群	7	北尾遺跡
8	島遺跡	9	曲226号墳	10	船渡遺跡
11	米里銅鐸出土地	12	米里第一遺跡	13	米里第二遺跡
14	天神川河床遺跡	15	宇ノ塚遺跡	16	殿屋敷遺跡
17	馬場遺跡	18	用露鼻遺跡	19	長畑遺跡
20	茶臼山要害	21	中浜遺跡	22	下神1号古墳
23	曲宮ノ前遺跡	24	曲第一（岡）遺跡	25	島苅山遺跡

挿図1　北条町内遺跡分布図

第１章　調査に至る経過

今回の調査は、北条町北尾に所在する八幡山の丘陵尾根部付近において、ＮＴＴドコモ北尾基地局建設工事を行いたいとの連絡が株式会社ＮＴＴドコモ中国から北条町教育委員会にあったため、本工事予定地内における埋蔵文化財の取り扱いについて工事との調整をはかるべく協議を行った。その結果、本工事予定地内周辺には「北条町遺跡分布図」に示されるように周知の遺跡である北尾古墳群及び北尾釜谷遺跡が存在するため、トレンチによる試掘調査を実施することになった。

また、北条町曲地区南部に広がる丘陵部においても、ふるさと農道緊急整備事業に伴い、工事主体者である北条町産業建設課と同様の協議を行った結果、本工事予定地付近に周知の遺跡である曲岡遺跡の所在が確認されていることからトレンチによる試掘調査を実施することになった。

そこで、文化財保護の立場から双方の事業において工事施工予定時期等と発掘予定箇所、そして調査体制等を考慮しながら、調整を図るよう互いに確認しあったうえで、北条町教育委員会は鳥取県教育委員会、鳥取県埋蔵文化財センターとも協議を行い、工事予定地内の遺跡の有無、また分布範囲等を確認するため次のように調査団を編成し平成12年11月から平成13年２月にかけて、国及び県の補助金を受けて町内遺跡発掘調査を行った。

平成12年度調査体制

調査主体　　北条町教育委員会
　　教育長　吉田　俊夫
調査指導　　鳥取県埋蔵文化財センター
調査担当　　清水　直樹（担当、教育課社会教育係主事）
文化財保護委員　松本達之・宇田川　宏・西村勝義・日置粂左ヱ門・前田明範
事務指導　　鳥取県教育委員会文化課
事務担当　　清水　直樹（担当、教育課社会教育係主事）

第2章　位置と環境

北条町は、鳥取県中央部の海岸沿いに位置する、町域東西5.6km、南北4.7km、総面積20.99km²をはかる小さな町である。東は県内３大河川の一つである天神川を隔てて羽合町、西は大栄町、南は倉吉市に接し、北には日本海が広がる。

本町北部は、豊かな砂丘農業で知られる北条砂丘が東西12km、南北1.5kmの規模で北条砂丘が大栄町から羽合町にまたがってひろがり、南部には倉吉市と二分しているなだらかな丘陵で標高70mの土下山、そして標高171mの蜘ケ山が位置する丘陵部で、梨、柿などの果物栽培が盛んに行われている。これらに挟まれて位置する北条平野は、天神川によって上流から運ばれてきた土砂が堆積することで形成された沖積平野で、高低差が少なく平坦な地域で古くから北条田園と呼ばれている地域である。

このように本町の地形は３地域に分けることができ、各地域ごとに遺跡の分布について述べてみる。

砂丘地では、隣町の羽合町の、砂丘の固定化と形成時期を決定するクロズナ層から、古墳時代の超一流の砂丘遺跡の長瀬高浜遺跡が発見されている。本町においても、江北浜北野神社付近の河川工事の際、土師器、須恵器、土馬、銅鏡、鎧片などが出土し、下神及び弓原浜の採砂場からは、弥生武土器、土師器片が出土していることから、砂丘地は弥生時代から古墳時代にかけて人々の生活の場であったことがうかがえる。

平野部においては、昭和27年の北条川改修工事の際に発見された島遺跡があり、縄文時代前期から晩期にまたがる土器をはじめ、石器ニホンシカ、イノシシを主とした動物骨格片が発見されている。また、対岸に位置する米里船渡遺跡でも、周辺の畑から縄文土器片、水田下よりひきりうす、住居の用材とみられる木製品が検出されている。平野部と丘陵部の境界にあたる地域に位置する島、船渡の両地区において、漁業狩猟が当時主な生活手段であったことは、貝塚、丸木舟の存在のほか、北条平野が当時、縄文海進によってラグーンが形成されており、このラグーンに面した湖岸に当地域が位置していた事実からもあてはまることができよう。

丘陵地においては、茶臼山古墳群、土下古墳群、北尾古墳群、島古墳群、曲古墳群など約600基が存在する県下有数の古墳密集地である。中でも、土下古墳群に含まれる210号墳及び、213号墳から全国的にも貴重な鹿埴輪、鹿の子の模様の入った人物埴輪が出土していることから、古墳時代に当地の繁栄した姿がうかがえる。

今回調査を行った北尾地区、曲地区はいずれも周知の遺跡に近接しており、地域の歴史的背景を知る上で重要な位置を占めるが、町内にねむっている多くの遺跡のうち調査を終えたところは未だごくわずかであり、詳しい歴史的環境の解明はこれからである。

第3章　調査の概要

1　北尾地区試掘調査

調査地点　北条町北尾字八幡山

調査期間　平成12年11月13日～11月24日

調査面積　47.5㎡

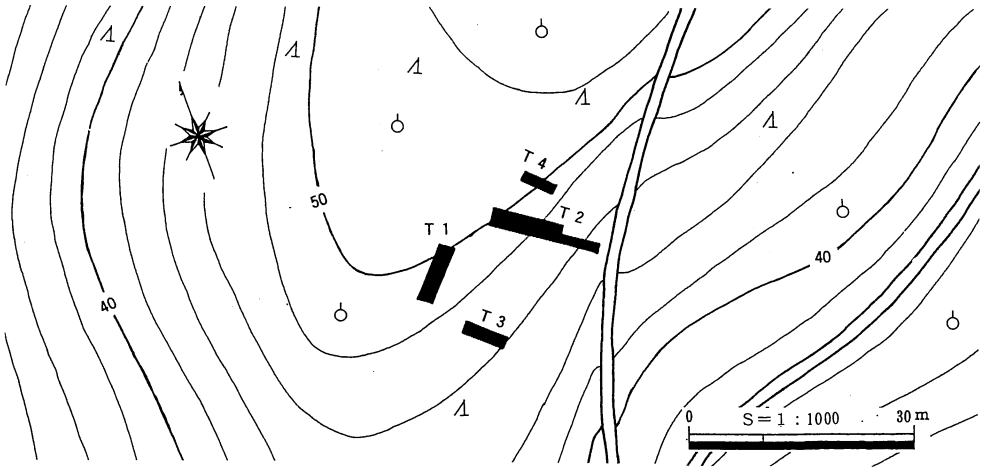
調査概要　ＮＴＴドコモ北尾基地局建設工事の工事予定地は、南北にのびる八幡山の丘陵尾根部付近に位置し、現況は畑地及び山林となっている。本工事予定地の周辺には周知の遺跡である北尾古墳群が確認されているため、長さ4.0～14.5m、幅1.0～2.0mのトレンチ４本を設定し遺構、遺物の確認を行った。

その結果、トレンチ２の耕作土中から土師器片及び須恵器片が確認されたがいずれも摩耗の著しいものであったことから、これらの遺物は上部からの流れこみによるものと考えられる。

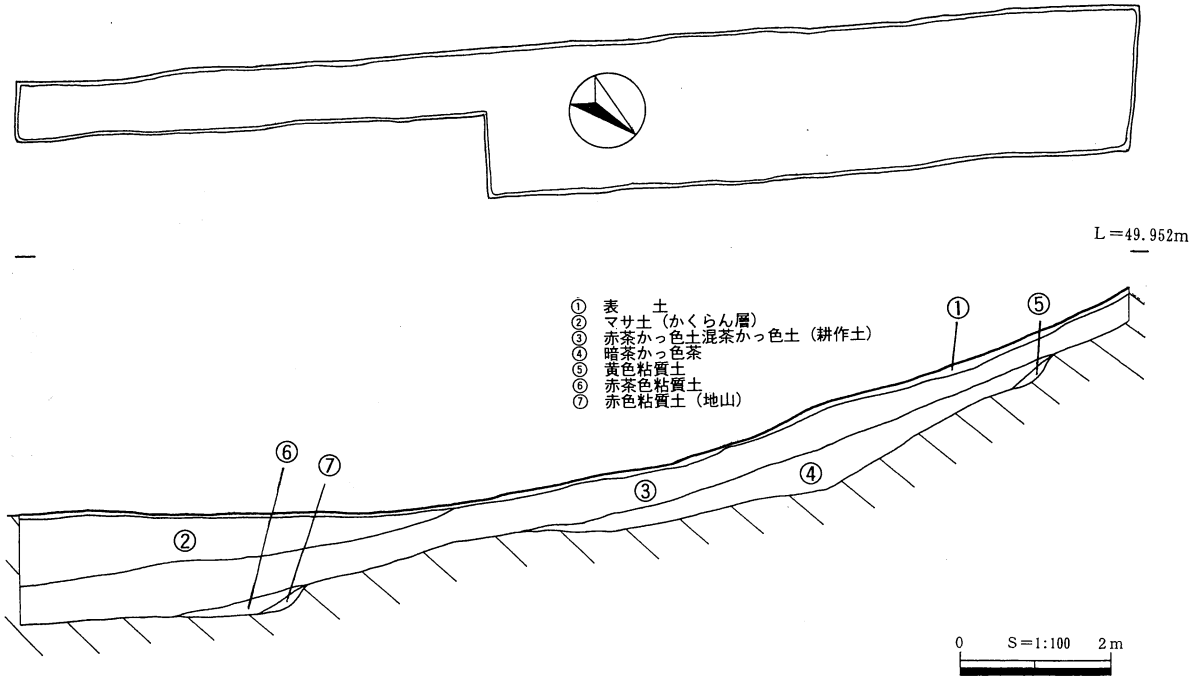
トレンチの規模・面積・検出遺構・遺物について以下の表にまとめた。

〈北尾地区トレンチ一覧表〉

トレンチ番号	地区	規模（m）	面積（㎡）	出土遺物	遺構
Ｔ　1	北尾字八幡山	2.0×7.5	15.0	なし	なし
Ｔ　2	北尾字八幡山	2.0×9.0 ＋1.0×5.5	23.5	土師器片 須恵器片	なし
Ｔ　3	北尾字八幡山	1.0×5.0	5.0	なし	なし
Ｔ　4	北尾字八幡山	1.0×4.0	4.0	なし	なし



挿図２　北尾地区トレンチ位置図



挿図３　北尾地区トレンチ２平断面図

2　曲地区試掘調査

調査地点　北条町曲字屋敷、坂場東平、岡

調査期間　平成13年１月22日～２月15日

調査面積　184㎡

調査概要　工事予定地は、周知の遺跡である曲岡遺跡が所在する蜘ケ家山北側丘陵部に位置し、現況は畑地及び山林となっている。事前の踏地により、本工事予定地周辺の表土から遺物の散布が確認されたため、試掘調査を実施することとなった。

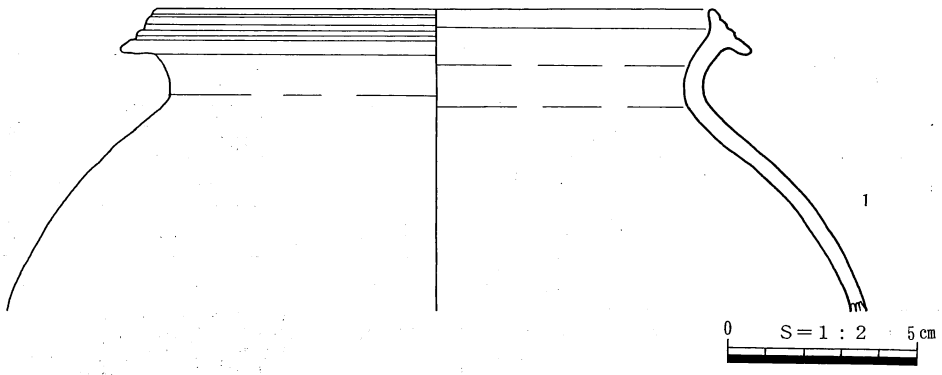
今回の調査は、本工事予定地内にみられる蜘ケ家山丘陵部途中の、標高約15m～47mをはかる丘陵平坦地を中心に長さ５～14m、幅１～２mのトレンチ12本を設定し遺構、遺物の確認を行った。

その結果、谷の底部に設定したＴ11から完形に近い９～10世紀のものと考えられる皿・盤（挿図７　遺物№３、４）をはじめ、これらと混在して弥生時代後期から平安時代頃までまたがる多数の土器片が出土した。また、その他の各トレンチからも弥生土器片・土師器片・須恵器片が確認されたが、いずれも摩耗の著しいものであった。トレンチの規模・面積・検出遺構・遺物について以下の表にまとめた。

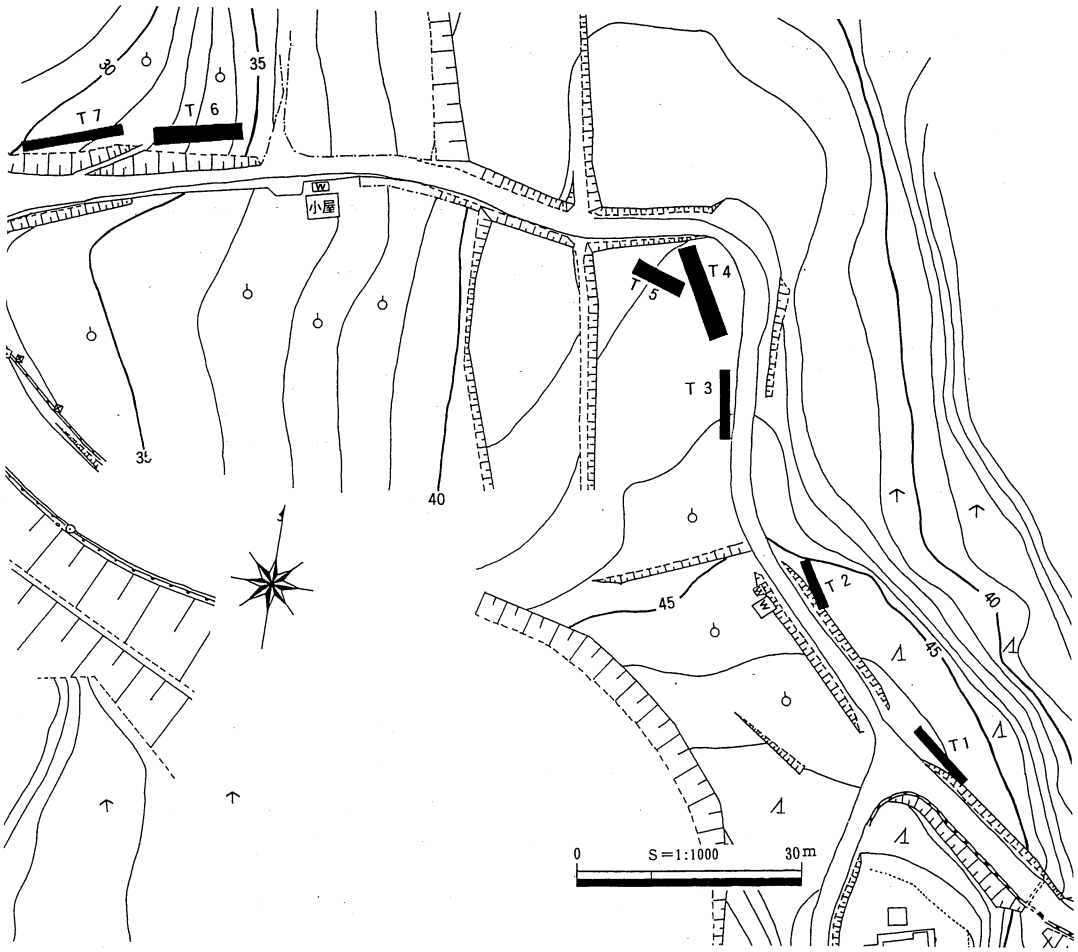
〈曲地区トレンチ一覧表〉

トレンチ番号	地区	規模(m)	面積(㎡)	出土遺物	遺構
Ｔ　1	曲字屋敷	1×9	9.0	土師器片・須恵器片	なし
Ｔ　2	〃	1×7	7.0	なし	なし
Ｔ　3	曲字岡	1.5×9	13.5	弥生土器片・土師器片須恵器片	なし
Ｔ　4	〃	2×12	24.0	土師器片・須恵器片	なし
Ｔ　5	〃	2×7	14.0	土師器片	なし
Ｔ　6	〃	2×11.5	23.0	土師器片・須恵器片	なし
Ｔ　7	〃	1×13	13.0	弥生土器片・土師器片須恵器片	なし
Ｔ　8	曲字坂場東平	1.5×7	10.5	なし	なし
Ｔ　9	〃	2×10	20.0	土師器片	なし
Ｔ１０	〃	1×15	5.0	なし	なし
Ｔ１１	曲字岡	2×12	24.0	弥生土器片・土師器片須恵器片・中世須恵器	なし
Ｔ１２	〃	1.5×14	21.0	弥生土器片・土師器片須恵器片	なし

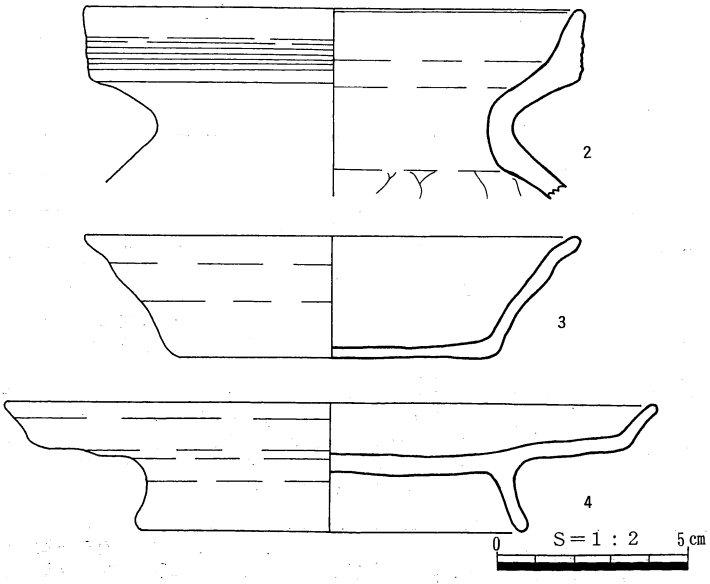
挿図４　曲地区トレンチ位置図①



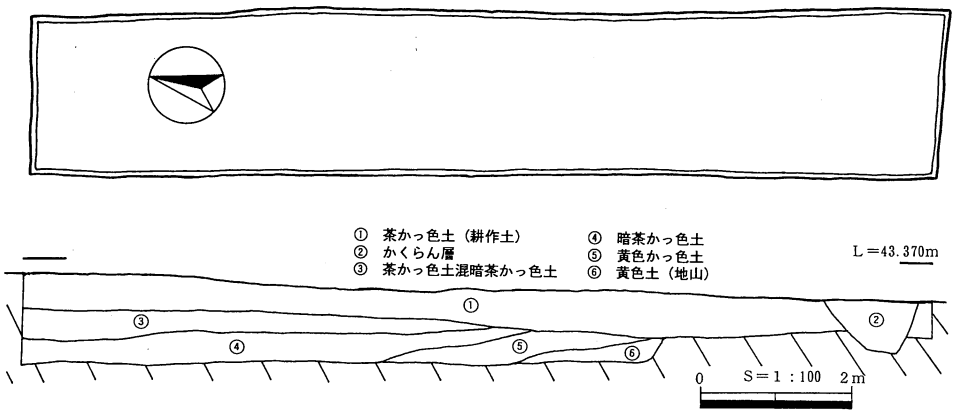
挿図５　曲地区トレンチ11出土遺物①



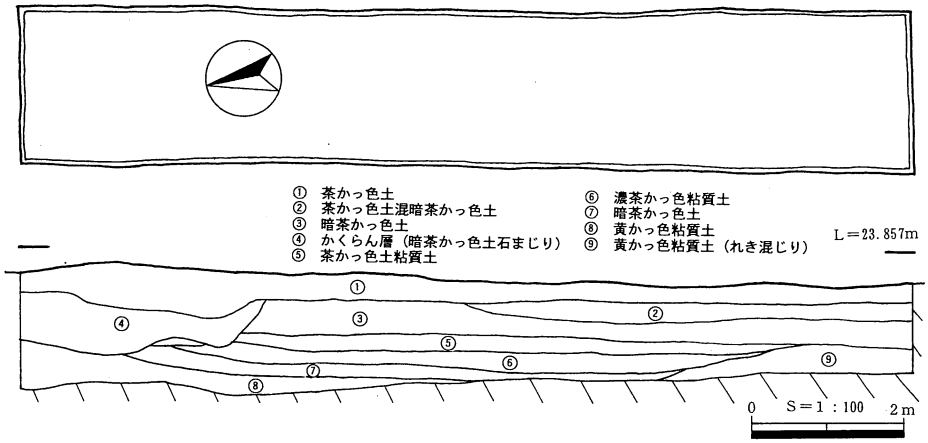
挿図６　曲地区トレンチ位置図②



挿図７　曲地区トレンチ11出土遺物②



挿図８　曲地区トレンチ３平断面図



挿図９　曲地区トレンチ11平断面図

曲地区出土遺物一覧表

品種	出土場所	挿図	図版	法　量	時　代	形態上の特徴	形成手法の特徴	備　考
甕	T11			復口径 14.8cm	弥生時代 後期	口縁端部は上下に幅広く拡張され、大きく内傾する。外面に３条の凹線文を施す。	口縁部内外面横ナデ。内面頸部以下ケズリ。	胎土　密　砂粒含む 焼成　良好 色調　灰褐色
甕	T11			復口径 13.4cm	弥生時代 後期	やや外傾する複合口縁で、外面に５条以上の凹線文を施す。	口縁部内外面横ナデ。内面頸部以下ケズリ。	胎土　密　砂粒含む 焼成　良好 色調　灰褐色
盤	T11			復口径 17.4cm 脚　径 10.6cm 器　高 3.4cm	平安時代 (9～10C)	やや斜め外方にのびる底部から短く屈曲する口縁部を持つ。口縁端部は丸い。底部から「ハ」の字状にやや外反する高い高台を持つ。端部は丸い。	口縁部内外面横ナデ。底部内面ナデ。外面ヘラ削り後ナデ。高台部内外面横ナデ。	胎土　密　砂粒含む 焼成　良好 色調　黄褐色
杯	T11			復口径 13.2cm 器　高 3.3cm	平安時代 (9～10C)	平坦な底部から斜め上方向に開く杯。口縁端部は丸い。	杯部内外面横ナデ。底部外面ヘラ削り後ナデ。	胎土　密　砂粒含む 焼成　良好 色調　黄褐色

第４章　まとめにかえて

平成12年度は、ＮＴＴドコモ北尾基地局建設工事に伴い、北尾字八幡山地区においてトレンチ４本、ふるさと農道緊急整備事業に伴い、曲字坂場東平、曲字岡、曲字屋敷地区においてトレンチ12本を設定し遺跡の有無を確認した。

北尾字八幡山地区周辺の丘陵地尾根上及び丘陵地平坦面には、すでに北尾古墳群、北尾釜谷遺跡が周知の遺跡として存在することが知られている。これらの遺跡が今回の工事予定地と近接することから、工事予定地内にトレンチを設定し調査を実施したところ、Ｔ２の耕作土中から土師器・須恵器片を確認した。しかしながら、遺構が確認されておらず、出土遺物をみると細片化しており、摩耗が著しいこと、そして調査地である丘陵上部には北尾14・15号墳が存在することから、調査地から出土した遺物はこれらの古墳からの流れこみと考えられ、本工事予定地においては遺跡は存在しないと判断した。

曲字坂場東平・曲字岡・曲字屋敷の各地区周辺においては、曲古墳群、曲岡遺跡が周知の遺跡として存在していることが知られている。この地域において計画されている本工事予定地もこれら周知の遺跡に近接するため、主に丘陵地平坦面にトレンチを設定し調査を実施した。その結果、遺構は確認できなかったものの、特にＴ11から９～10世紀頃のものと考えられる皿・盤が完形に近い形で出土した。その出土状況を見ると、これらは挿図に見られるような弥生時代後期からの遺物片とともに、同じ層に混在するかたちで出土していること、またＴ11は谷の底部に位置し、その上部には周知の遺跡である岡遺跡が所在することなどから、出土遺物は上部からの流れ込みによるものと推定される。なお、Ｔ11からは９世紀から10世紀頃の瓦片（図版２）が出土していることから、調査地の上部には地域的に重要な何らかの建造物が存在していたことが考えられる。また、その他のトレンチからも主に耕作土中から遺物が出土しているが、いずれも摩耗の著しい細片であることから開墾により当地に所在する遺跡が削平されたものであるか、あるいは尾根部に存在する遺跡からの流れ込みによるものであると推定される。

今回は、周知の遺跡に近接した地域において試掘調査を実施したが、いずれの工事予定地においても遺跡の存在を確認できなかった。しかしながら、本町には600基にものぼる古墳、また遺跡が存在しており、そのほとんどが調査されていないことから、これからの山野の開発に伴い発掘調査を行っていくうえで、本町またその周辺地域の古代人の生活・文化がいっそう解明されればと願ってやまない。

報告書抄録

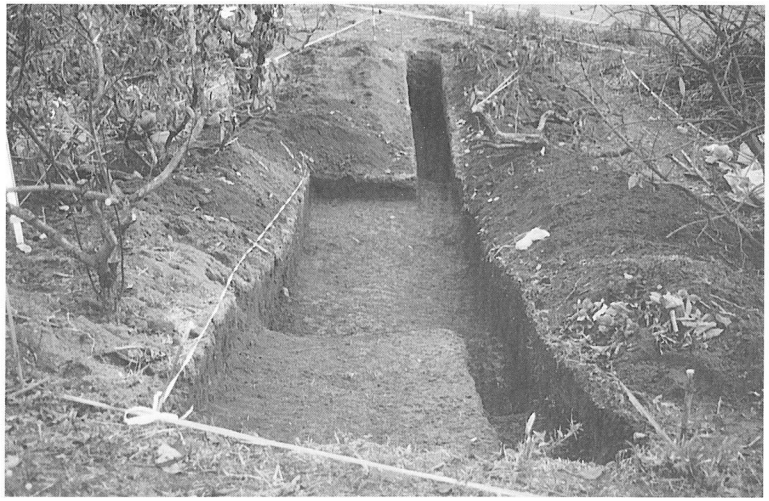
ふりがな	ちょうないいせきはっくつちょうさほうこくしょだい10しゅう
書名	町内遺跡発掘調査報告書第10集
副書名	
巻次	第10集
シリーズ	北条町埋蔵文化財報告書
シリーズ番号	30
編著者名	清水直樹
編集機関	北条町教育委員会
所在地	〒689－2111　鳥取県東伯郡北条町土下112　TEL 0858－36－5570
発行年月日	西暦2001年3月21日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東緯 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
北尾古墳群（きたおこふんぐん）	鳥取県東伯郡北条町北尾字八幡山（とっとりけん とうはくぐんほうじょうちょうきたお あざ はちまんさん）	31366		35°28′33″	133°48′36″	2000.11	47.5	NTTドコモ北尾基地局建設工事
曲岡遺跡（まがりおか いせき）	鳥取県東伯郡北条町曲字岡（とっとりけん とうはくぐんほうじょうちょうまがり あざおか）	31366		35°28′39″	133°47′50″	2001.1～2001.2	184.0	ふるさと農道緊急整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
北尾古墳群	なし	なし	なし	土師器片 須恵器片	なし
曲岡遺跡	なし	なし	なし	弥生土器片 土師器片 須恵器片 中世須恵器片	なし

図　　版

北尾地区近景（北東から）



北尾地区トレンチ２完掘（東から）

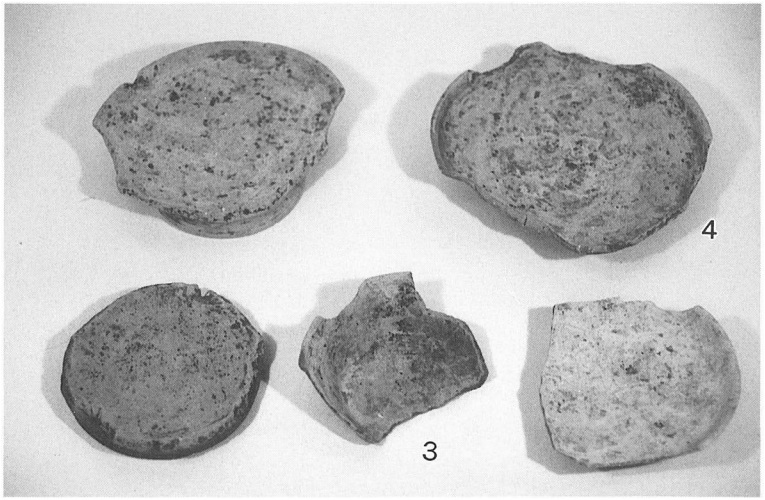
曲地区遠景（北から）

曲地区トレンチ４完掘（北から）

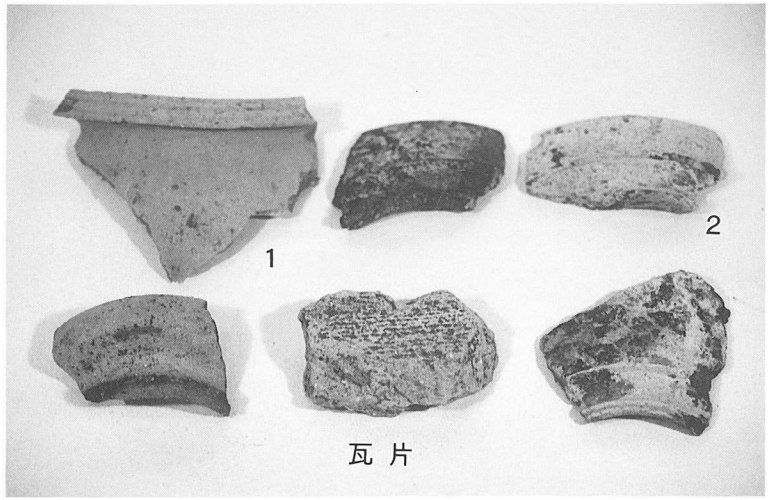
図版１

曲地区トレンチ11完掘（北から）

曲地区トレンチ11遺物出土状況



曲地区トレンチ11出土遺物①



曲地区トレンチ11出土遺物②

図版2

平成13年３月印刷
平成13年３月発行

北条町埋蔵文化財報告書30

町内遺跡発掘調査報告書第10集

編集　鳥取県東伯郡北条町土下112
発行　北条町教育委員会

印刷　有限会社　矢積印刷
製本　鳥取県倉吉市宮川町２－３６